

## 第6回「マス・メディアとアフリカの紛争」

日時：6月20日(水) 午後7時～午後8時30分

会場：龍谷大学 大阪梅田キャンパス 研修室

講師：ヴァージル・ホーキンス

大阪大学大学院 国際公共政策研究科 准教授

URL <http://stealthconflictsjp.wordpress.com/>

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/>



ホーキンスさんは大阪大学大学院国際公共政策博士課程終了後、特定非営利活動法人アムダのアドバイザーとしてカンボジア、同法人駐在代表としてザンビアに滞在しました。帰国後は大阪大学グローバルコラボレーションセンター勤務を経て、2010年から大阪大学大学院国際公共政策研究科で国際政治、紛争研究（特にアフリカ）、メディア研究について教鞭をとっています。

### 講義概要

“マス・メディア”と“アフリカの紛争”は一見関係がなさそうに見えます。しかし、メディアによるアフリカ報道に関する量の少なさが、紛争の終結を遅らせ、多くの犠牲者を出す一因であるとホーキンスさんは指摘します。講座では、なぜアフリカに関する報道は少ないのか、なぜアフリカについて取り上げることが必要なのかを含めて、メディアが紛争に与える影響を考え、情報の受け手である私たちにできることをワークショップで話し合いました。

### 報道されないアフリカとその原因

現在の日本では様々な面でグローバル化が進んでいますが、メディアの状況は異なります。日本のメディアで伝えられるニュースの大半は国内に関するもので、NHK（日本放送協会）で放送される『ニュースウォッチ9』の中で、国際ニュースが占める割合はわずか9%に過ぎず（2012年1月～6月15日）\*、主な内容は北朝鮮問題、欧州危機、米国、中国関連が殆どの部分を占めます。中でもアフリカに関する報道は極端に少なく、読売新聞におけるアフリカに関する報道は全体のわずか3%にとどまりました（2009年度）\*。NHKの取材体制を概観すると、アフリカ支局はエジプトの首都カイロの一支局に過ぎず、アフリカの中南部で事件や紛争が発生しても、現地取材の対象から回避される傾向があります。欧米の報道状況については、日本よりも機会が多いものの、その割合は10%以下にすぎず、アフリカのニュースは世界的にも報道される機会が少ないことが伺えます\*\*。

アフリカに関する報道が少ない理由として、ホーキンスさんは以下の四つの原因を指摘します。第一に、現在の報道が情報（information）と娯楽（entertainment）が混在している Infotainment に傾倒していることです。メディアは視聴者にとって“面白い”ニュースを報道し、視聴率を上げることが求められますので、目を向けるべき世界の出来事は、視聴者の関心がなければ特段扱わないのが現状です。第二に、タンタル、スズ、コバルトといった鉱山資源の多くをアフリカに頼っている政府や企業にとっては、アフリカで起こっている現

実を知らない方が好都合であることも否めません。また、メディアが扱う国際報道の内容は、政府に誘導されやすい傾向があるため、意図的に報道量が少なくなることも考えられます。第三に、日本にとってアフリカは地理的な距離、人種・文化においても遠い存在であり、共感を得にくいことがあげられます。最後に、日本ではアフリカに関する問題を無視・軽視する傾向があり、教育機関において学ぶ機会が提供されてこなかった点です。そのため、視聴者・読者はアフリカの紛争の経緯がわからず、メディアからは“関心がない”という都合のよい解釈が生じていました。ホーキンスさんは、教育の現場でアフリカについて学ぶ機会が与えられることによって、関心を持つ人も自然に増え、アフリカに関する報道量に反映されると考えています。

\* すべて講師自身による調査データによる。

\*\* Le Monde:9.3%、BBC: 8.5%、New York Times:6.9%、CNN:6% (全て2000年の調査結果)

### なぜアフリカを取り上げる必要があるのか

---

冷戦後の世界の紛争による死亡者数の割合はアフリカが全体の9割を占めています。これまで一番多くの死者を出したコンゴ民主共和国の紛争では約540万人が亡くなりましたが、原因の大半は、実際の戦闘ではなく病気や飢えによるものです。メディアが関心を持ってこの事実を世界に伝えていけば、各国の政府やNGOなどによる積極的な支援を実現させることによって、救えた命も多いと考えられます\*。さらに、日本はアフリカから多くの鉱物資源や食品を輸入しており、紛争によってそれらの供給が滞り、私たちの生活も左右されることは間違いありません。また、日本は私たちの税金からアフリカへ多額のODAをしています。私たちがメディアの報道によって正しい現状認識を持ってその声を反映させることで、よりよい支援をできるようになるといえます。

\* 詳細は“STEALTH CONFLICTS:How the World's Worst Violence Is Ignored”(Virgil Hawkins, Ashgate Pub., 2008)に記載。

### 私たちはどうすればメディアに影響を与えられるか

---

講座の最後、受講者はグループに分かれて「日本における紛争もしくは世界に関する報道を改善するために、私たちはどのような方法で影響を与えられるか」という議題についてディスカッションをおこないました。ここでは「教育現場でアフリカについて知る機会を増やす」「文部科学省に働きかける」「アフリカの音楽や美術のイベントを行い、文化的側面からメディアの注目を集める」といった提案がみられました。すぐに実行できることから長期にわたって取り組まなければいけないものまでありましたが、今日学んだことから自分にできることを見つけ、積極的に働きかけてほしいとホーキンスさんは述べられました。

### アフリカに関する情報を収集するには

- メールマガジン購読する。stealthconflictsforum@gmail.com に空メールを送る。
- 「ステルス紛争」のブログを読んでみる。  
<http://stealthconflictsjp.wordpress.com/> (日本語) <http://stealthconflicts.wordpress.com/> (英語)
- FAIR (Fairness and Accuracy In Reporting) <http://www.fair.org/index.php>

以下、ホーキンス先生が推奨する報道機関

- ラジオ: BBC Podcasts (Global News, Africa Today)
- 新聞: The Guardian, International Herald Tribune
- テレビ: Al Jazeera (News, Listening Post)
- 週刊誌: Economist